

第 11 回公共施設再編計画策定検討委員会 議事要旨

日時：2018年5月8日（火）14時～15時30分

場所：町田市役所 2階おうえんルーム

出席者：委員長 市川宏雄氏

副委員長 山重慎二氏

委員 神山和美氏

前島正光氏（欠席）

岩崎俊男氏

大塚信彰氏

小林祐士氏（欠席）

通地康弘氏

大倉博志氏（欠席）

増山正子氏

長谷川隆氏

※小林氏の代理として戸塚氏が出席

1. 事務局連絡事項

- ・ 4月からの公共施設再編担当職員の挨拶
- ・ 傍聴は6名。
- ・ 資料の確認
- ・ 本日の議題の説明。

2. 議事（1）報告事項・振り返りと今後の流れについて

事務局

- ・ これまでの検討の流れを説明
- ・ 今後の流れ

5月31日第12回委員会（最終回）で計画案の最終確認をする。6月中旬に公共施設再編計画を策定する予定。

3. 議事（2）市民説明会・意見募集実施結果について

事務局

- ・ 市民説明会の概要について

2018年3月22日から27日にかけて行った。前回の説明会は90名ほどだったが、今回は130名の参加だった。全体2時間の説明会で、説明を1時間、質疑応答1時間で構成。説明では町田市が置かれている状況や、再編にあたってどのような考え方で進めていくかを示し、施設機能ごとの方向性と取組み、短期再編プログラムを説明した。全体の総括としては、各機能の具体的な施設の意見交換ができた。

- ・ 市民意見募集について

3月20日から4月20日にかけて募集し、4月20日時点で48名、125件の意見があった。今回特に多かった意見としては、コストのかけ方についての疑問、施設に対する具体的提案、個別施設の存続についての意見だった。6月末に、頂いたご意見に対する市の回答をHPに載せる予定である。

4. 議事（3）質疑・議論

委員

頂いた市民意見はもっとも常識的なものだと思うが、具体的に再編計画にどのように落とし込むと考えているか。

委員長

意見の内容を精査して、メリットデメリットを勘案しながら反映していくことになる。出てきた意見をそのまま反映するというわけではない。

委員

意見の内容を見ていると、若い人の意見が反映されていないように思えるが、意見を寄せた方、説明会に参加された方は、高齢者が多く、若い人が少ないということからか。

事務局

意見は頂いているが、30～40代までの意見は比較的多くない。

委員

若い人の意見は、アンケートを中心にするということでのいいのか。

委員長

多くの自治体でも同じ問題が起きている。未来を語っているのに、出てくる意見は未来ではなく現在を語っている。できるだけ若い人たちに知ってもらおうということをする。今回については通常の形で行う。今後意見を詰めるならば、若者をどうするか。例えば高校に出前授業をするとか。これは追々。年齢構成に偏りがでてしまうのはある程度仕方がない。

委員

これから意見をもらう形を広げていくということか。

委員長

今回は行ったことの説明で、今後は SNS を使う、テレビを使うということで広げていくということも考えられる。

委員

この説明会での意見と意見募集とでは重複がない。意見募集のやり方によっては、多岐にわたった意見が出てくるのではないかと思う。年代別や性別の選別はしていないということだが、男女差等はあるのか。

委員長

サンプル数が少ない。もう少し意見を集める必要がある。いくら若者にとっても、若者は意見を言わない。また、出される意見が必ずしも正しいというわけでもないので、最終的にはすり合わせが必要。お金の使い方についても時間をかけて説明するしかない。

委員

高齢者にとっては近くに施設が欲しい、スポーツ施設も小さくていいから近くにあるという等の意見、地域住民の声を聞いてほしいという意見が結構あった。今後どのように調整していくのか。

委員長

前提として、町田には施設がいっぱいある。どうすればそれを維持できるのか考えていかなければならない。一つは施設に対する利用者の数というのがある。それだけの税金を使って、利用者はどうなのか。利用者数の妥当性の検証は避けて通れない。今ある施設を維持できるだけの理由と利用者がいるのか。その結果、すぐそばにあったものが無くなることもある。無くなるのは誰だって嫌だけれど、無くなる場合はそれだけの理由がある。集約化すれ

ば、いくつかの小さい施設が集まってひとつになる訳だから、場所が遠くなるという問題に対して、コミュニティバスの普及も含め、全体的に考える必要がある。地域の意見を当然聞いていく。その意見に対してどうしたら良いか、財政状況や利用者の便益も含め考えていかなければならない。

委員

複合化の件について、小学校は地域の中心になっているが、今は小学校がクローズな方向に向かっている。オープン化するという事はセキュリティの問題で反対の方向に向かっている。複合化にあたっては、オープン化が必要であるが、市や県、場合によっては国に言って進めているのか。

委員長

学校のオープン化は実例がある。オープン化してもセキュリティが守られている例はたくさんあるので、いろいろな不安に対して対応していく。今までは単一機能で市民にサービスを提供している時代が長かったが、人口減少、財政逼迫の中で、施設を再編すること、複合化は避けて通れない。

委員

市民の考えがよくわかった。公共施設再編に向けて、公共が提供できないサービス、例えば個人の家を借り上げて高齢者の方が利用できるようにするなど、新たなサービスが提供される仕組みをつくるといったことが必要だと思う。その辺はどう考えているのか。もうひとつ気になったのは、まちのビジョンがないということで、中心市街地活性化の委員会の中でも、どういうまちを作っていくのかという話を必ずやる。財政の厳しい中で、どういうまちを作るのか、市民の理解が得られれば再編につながっていくと思う。

委員長

今後の実行は、各部局と検討してやっていこうが、事務局から具体的に何かあれば。今後の流れの中で、どういうことになるのか。

事務局

市民の方は、市役所内部の体制がどうなっているかは関係なく、まちづくり全体の中で再編がどうなのか意見を言っている。市がどういうまちを作っていくかというようなビジョンが、十分に届いていないと再編計画の議論を進めていく中でわかった。市はまちづくりの方向性をしっかり見えるようにしていかなければならない。また、都市計画マスタープラン等と

の整合性を図りながら、進めていきたい。

委員長

町田市未来づくり研究所で未来ビジョンを出しているが、市民の方は読んでいるのかどうか。おそらく読んでいない。ビジョンがないと言っても市では考えている。今回はそういったものの延長にある計画である。

委員

一市民として読んでいるかと言われると読んでいないのが一般的だと思う。毎回ビジョンを提示してから話を聞いてもらうことも大事だと思う。幅広く市民にビジョンを見てもらうためにも、Q&A みたいな形にして、ホームページの中にも色々とリンクを貼るなどして、できるだけ多くの方に知ってもらうのもいいやり方だと思う。

委員長

これは重要な意見で、ホームページを見ればわかるということではなく、見てくださいという行動が重要。行政の発信は弱い。

事務局

議論する議員も素案を見た市民の方もそうだと思うが、市のビジョンと公共施設再編の計画がどう結びついているかが解明できないと答えや意見が出しづらいと思う。長期計画の4つの都市像との結び付け方もある。再編計画は人口の減少も踏まえて、まちのことを考えようとしている。どのようなまちづくりをしていかなければならないか、投資と効率化をきちんと説明してやっていかなければならないと感じる。再編計画を作って終わりではなく、現状を知ってもらうところから始めて、地域の方と話し合っていく。

委員長

長期計画もあるが、まず見るのは基本構想である。それを見てから長期計画に行く。

委員

住民の意見書を聞いたときに、小さくてもいいから身近な施設がいいという意見がある。これは聞いてもらえるのか。

委員長

それは各々の意見を聞いているので、いろいろな意見があると思う。もちろん意見は聞く

が、黙っている人の意見も聞かなくてはいけない。発言している人の意見は、一つの意見で全体の意見ではない。問題はその意見が妥当かどうかである。

委員

身近な小さな施設も含めて考えていかなければならないのではないかな。

委員

公共が担わなくてはいけない仕事と、市民が担う仕事があるのではないかな。施設を減らそうとなると、市民と一緒にやっていかなければならない。施設の集約や複合化で、施設が遠くなってしまって困るといった意見もあるが、それは間違いなく必要な施設である。もう一回市民と一緒に知恵を出し合って、役所がお金を出さなくてもいい方法を考えることが、ある意味地域の再編になっていくと思う。無くなったら困るといった意見はどんどん出てくると思う。そのことは懸念している。

委員長

行政におんぶに抱っこでなくて、使う人が負担する。行政が全てできないというのが出発点。民間に丸投げしてはいけないといった意見があったが、市民だってある意味民間であって参画が必要。

事務局

少しだけ補足したい。概要版の6ページの3の基本イメージのところ、みんなが利用する複合施設を載せている。学校の中に他の機能を加えるという複合施設の例。学校も減る可能性があるし、複合施設まで遠くなって困る住民もいるので、行政だけでなくみんなで作るということを記載している。施設の集約や複合化だけでなく、分散化も地域の人から求めているので考えていかなければならない。行政がやるには無理があるけれど、空き家や地域の大学等の地域資源を活用して、どのようなことができるか今後議論していく。複合化と分散化をうまく描いていけるようにということで、このイメージをもっている。

委員長

経済成長と人口増がとまった時代にどうするか。議論は色々あると思う。

事務局

事例として。デイサービスは、民間事業者と市が行っているものがある。介護を受ける人が増えていく中で、住民が主体となって、歩いて通える範囲内のところで、介護予防の教室

を行っている。町田を元気にするという体操のトレーニング教室も60団体が立ち上がって、通う集まりといった例もある。公共施設の再編の中で、民間の活力で生まれているものもあるという事例を知ってほしい。

委員

まさにそうした話である。再編することが不利益ばかりだと市民が思わない仕組みを考えてほしい。公共施設再編について皆で話し合えるといい。

5. 議事（4）町田市公共施設再編計画（案）について

事務局

町田市公共施設再編計画案について説明（資料2参照）。計画は、委員会や市民意見を踏まえて作成している。

6. 議事（5）質疑・議論

委員長

この委員会ではいろいろな資料で議論をしてきたがそれをまとめたものである。概要版の方がわかりやすい。今回初めてなのは、地域別の施設の状況だがこのような資料は重要。こうした客観的なデータと方向から決まっていく。色々な意見が出てくるが、それが妥当かどうかは客観的データ等を使いながら見ていく。計画書本編と概要版をセットで、ご意見をいただきたい。

委員

公共施設を再編にするにあたって、建物とサービスを分けるのはいい考え方だと思う。建物の既存施設を維持した場合のコスト、53.7億円というのは市が目指すべき値と考えてよいのか。

事務局

この数字を目指すというものではない。今までこの額をかけてきたという目安であるが、目標の絶対額ではない。

委員

2つの要素がある。建物の長寿命化と、それだけではだめで、縮減しなければならない。図中点々で囲まれた部分は縮減と思われるが、どのくらいの割合か。

事務局

点線で囲んだ場合の縮減部分であるが、長寿命化の効果であり、建物自体を減らした縮減額ではない。

委員

全体的に見させていただいているが、今後の推進について、どういうセクションをプロジェクトチームとして作っていくのか。中心市街地に数百億円といった大きな予算をつぎ込んでいる。駅前再開発がバブル崩壊した後、民間で回らないところに公共投資を行った。再編計画は大事である。役所はすごく真面目。インターネットの普及と同時に、公共が個人にサービスを行おうとするとお金がかなりかかる。市民が協働しながら、市民サービスを提供する必要がある。そういうことを踏まえて、どんなプロジェクトチームとなるのか。

事務局

この検討委員会以外に、庁内の検討委員会があり、両副市長と全部長が入っている。計画策定後だが、庁内横断的な（仮称）公共施設マネジメント委員会を設置し、両副市長、全部長が入って引き続き議論する。

委員

中心市街地の再開発は再開発事務所という専従の組織を作ったことがある。公共施設再編も専従でやらないとできない。

事務局

部長級の組織の下に課長級の組織、その下に作業部会として係長・担当者の組織を作る。組織としてはできないが、プロジェクトとしては各部門が参加したものとして進める。

委員

組織として課なり部なりを作る必要があるかと思う。もう一点、個別の話だが、産業系の施設の話があるが、まちづくり計画ときちっとすり合わせを図る必要がある。

委員

この再編計画自体は施設機能ごとに作られているが、今後地域ごとの検討をするとしたら、

施設機能ごとのレイヤーと地域ごとのレイヤーがわかった方がよい。今回は施設機能ごとの切り口でやるが、今後は再編計画を具体化する上で、地域の切り口で検討する必要がある。また、こういう報告書を一般市民は細かく見ないので、いきなり報告書が出てきたように誤解する可能性がある。これまでの市民ご意見募集等の経緯を細かく入れておいた方がよい。文字数も多いので、第5章以前が大切な部分であるが、読み飛ばされてしまう可能性もある。もう少し読みやすくした方がよい。報告書と概要版で強弱をつけることもポイントではないか。

委員長

第一のポイントは重要。今回は施設のレイヤーで作った。今後は地域のレイヤーで検討する必要がある。この点についてはどうか。

事務局

今までは全市にわたるものとして施設ごとのレイヤーで検討してきたが、10月以降は地域に入っていきたい。地域の入り方としては、まずは知っていただくことを中心に地域の集まり等にお邪魔して、宣伝させていただこうと考えている。大学生等に協力してもらって、若い世代に知ってもらいたいと考えている。また、これまでの経緯等は本編の資料編として整理したい。

委員

172ページの今後の推進体制について、横断的な組織でマネジメントしていくということだが、民間の人が入ったりするのだろうか。または庁内の人だけで行うのか。

事務局

これから大きく動いていく学校など、どういうメンバーでどういう議論をするのか、いろいろなかたちで進めるべきだと考えている。同じメンバーや1つの委員会で議論していくということよりも、意見交換しながら、新しい合意形成のかたちを作っていきたい。

委員長

推進体制をもう少し詳しくしてもよいのではないか。

委員

民間施設と公共施設が複合化していくということも重要。1か所で公共サービスだけでなく、買い物や郵便局も一緒にできれば利便性が高まる。民間と一緒にやっていくということ

も視点に入れていただいてもいいのではないかと。

委員長

今日の意見で微修正を行うが、私の方に任せていただきたい。

7. その他

委員長

今回は委員会の議論の結果を重く受け止めていただくために、市長に提言書を出そうと考えている。1つは、市民と行政の情報共有を進めること。2つ目は市がどのような都市を目指すのか、これが無くしてありえない。3つ目は、官民連携・市民対話。4番目は、着実に進められる組織体制。最後は、計画を定期的に検証する。この5点を市長に提言する。

委員

昨年新潟市のまちづくりの視察に行ったが、大学教授の方と話したときに、市民参加だけでなく、行政参加のまちづくりという言葉があった。そのためには、時間と人が必要。行政が出ていくということは再開発よりも必要。

委員長

市民と行政が同じ方向に向かって議論できるようにするため、行政計画等わかりやすく説明する必要がある。行政がどれだけうまく説明できるかによる。

委員

行政が地域に出てきて欲しいということがあるのではないかと。さらに膝を突き合わせて話し合うことを市民は求めている。

委員長

行政が出て行っても市民はそれほど集まらないという課題はある。一方、エリアごとになると人が集まってくる。

委員

市民が要望すると職員が説明に出ていく機会はあるのか。

事務局

この分野に限らず、いろんな分野で要望があれば説明に行くということは前向きに取り組んでいきたい。

委員長

修正の必要がある場合には、5月31日が最終回なので5月17日までに意見をいただきたい。

(閉会)